

企業名：九州フィナンシャル・グループ

レポート名：「統合報告書 2022」

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

この報告書には近年のグループの沿革や業績が詳しく述べてあり、さらに15頁には特集として現在の九州が抱える課題とともに2030年度の形が書かれている。また、SDGs、気候変動など世界規模の課題についても詳しく述べつつ成長戦略を描いているため理解しやすくなっている。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

この会社は銀行部門以外での収益比率を40%以上という目標を掲げており、非常に高い難しい目標であるが、これが達成できれば他金融機関との差別化につながり、競争優位性が保たれると考えることができるであろう。具体的には、新規事業である九州インベストメンツ株式会社を立ち上げて投資のコンサルティング業務を行うことを始めたり、「地域商社機能の強化・創造」を掲げてプロジェクトチームを結成し地域資源・地域ブランドの価値好悪上に向けて動く取り組みがはじめられたりと新たな事業展開が目立っている。また、人材派遣やデジタルを有効利用した人材育成などにも手を出しており、積極的に新規事業などで地域活性化や銀行部門以外の収益増大化に向けて動いていることが非常によく理解できる資料となっている。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

この九州フィナンシャル・グループの競争優位性は地域産業への支援など地域に向けての事業展開などにあるが、地域の問題というのは根深く、実際に人材派遣がうまくいくか、新事業を始め、様々な事業がうまくいくかは全く未知数である。したがってこの新事業や地域に向けての取り組みといった他社にはない競争優位性がこのまま何年も持続できるかどうかは未知数であり、そこに向けてどう対応していくかはもっと明確に明記したほうがいいのではないかと考えることができる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

思う。理由はこの会社の主な事業として一番に上がるのは銀行部門の業務であるだろうが、先ほどから何度も述べている通り、九州フィナンシャル・グループは銀行部門以外での売上高増大に向けてすでに様々な事業を展開している。このことを考えると多様な事業に参画できる機会がこの九州フィナンシャル・グループにはあると考えることができるので、この会社に属すれば人的資本の価値向上を達成できると考えられるし、デジタルでの人材育成

にも力を入れているとのことで、人材育成にもたけていることがアピールされていたことから人的価値の向上は可能であると考えられるであろう。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

多種の事業を行っていることから、一つ一つの事業がわかりにくくなってしまうことが懸念されるものの本報告書は、多くの図や表を活用して見やすくわかりやすくしていた点がよかったと思う。改善余地としては3番でも述べたように多種の事業での競争優位性の持続が可能であるか、どう可能にするかについての言及がもう少しあるといいのかなとも思った。また、インタビューなどが掲載されている点については非常にこの報告書に親しみやすくなると思うので良かったと思う。